



あすなろ

特別支援教室あすなろ
令和7年 12月 No.5

こんな「困った」ありませんか？

今年度、特別支援教育や特別支援教室で行っている支援について6回シリーズでお知らせしています。日常生活のお子さんとの関わりの中で、お子さん自身が『困った』と感じていること、保護者の方が『困った』と感じていることがあると思います。あすなろだよりを通して、6つのケースを紹介していきます。お子さんとの関わり方のヒントにいただけると幸いです。

それぞれのケースについて、**実態** → **『困った』の背景にあるもの** → **対応・支援** の流れで紹介します。

ケース4 暴言・暴力が激しい。

実態

Dくんは、「うるせー」「死ね」のように暴言を吐いたり、物を投げたりします。教員が叱ると、余計に暴言・暴力が激しくなります。



『困った』の背景にあるもの

人に何か言われると、素直に聞けない。
どのように行動したらよいか分からない。



対応・支援

「好ましくない言動」に関わらず、「子供の好ましい行動」に注目する。

→適切な言動をすれば認められるし、自分も嬉しくなることに気付かせる。

(例)「バーカ」などと独り言を言いながらも楽しそうに遊んでいるときは、不適切な言動には注目せず
に、「D君、上手に遊べていてすごいね。」のように適切な行動を褒める。

ただし、好ましくない行動は、以下の2つに分かれます。

- ① すぐに止めるべき行動 相手や自分を傷つける、公共物を壊すなど
- ② それほど緊急性のない行動 ①に該当しない行動

①は、体を使ってでも止め、②は、あえて言葉を掛けず、よい行動が出るまで待ちます。そのときに、あえて好ましくない行動には注目しないことです。また同時に、どうしたらその行動が改まるかと考え、環境や大人の関わりも見直しましょう。そして、よい行動が見られたら、すぐに褒めるなどのプラスの注目をする。これが、基本的な対応です。